

ニーズ高まる「産業カウンセラー」 活力ある職場づくりを応援

職場での人間関係や仕事のストレスなどの問題に耳を傾け、働く人自らで解決できるようにサポートする産業カウンセラーへのニーズが高まっている。日本産業カウンセラー協会関西支部の詫間篤子支部長と中田瑞穂養成講座部長に職場環境の現状や同協会の取り組みなどを聞いた。



中田瑞穂さん(左)と詫間篤子さん(右)

有資格者が6万人に
QWLの実現を支援

働き方改革が進む中、職場における人間関係やハラスメントなどによる精神的ストレスを訴える人が増えている。「国ではストレスチェックの義務化や定年延長（継続雇用の導入）、メンタルヘルスの推進などを積極的に進めています。職場環境の改善は簡単ではありません。中でもパワーハラスメント（パワハラ）の相談件数は年々増加傾向にあり、国もパワハラ防止を義務付ける関連法を19年5月に成立させました。大企業では20年4月から、中小企業では22年4月から適用される見通しです」

そこでニーズが高まって

いま求められる「心を聴くプロ」

るのが産業カウンセラーだ。

「1971年に産業カウンセラー試験が始まり、現在まで約6万人の資格者が誕生しています。企業カウンセラーはじめ研修講師など様々な場面で活躍しています。産業カウンセラーの使命は働く人の上質な職業人生（QWL）をオリティ・オブ・ワーキングライフの実現を援助し、産業社会の発展に寄与することです。産業カウンセラーは企業の相談室などで従業員の話を聴くだけでなく、現場で行動するカウンセラーとして、メンタル不調の予防から職場復帰への支援、ストレスチェック後のフォローなど、産業カウンセラーの受け持つ領域は広がっています。働きがいのある職場、働きやすい職場をつくる組織診断による職場環境改善の提案も行っています」

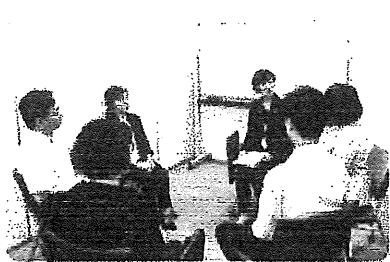
ウェブ配信で自宅学習
傾聴体験講座を各地で

日本産業カウンセラー協会は確かな傾聴力を習得し、「心を聴くプロ」である産業カウンセラーを養成する機関だ。

同協会では養成講座を「e-Learning」制に統一し、自宅でも学べるようにした。

「理論科目をウェブ配信による講義の視聴と2日間のスクーリングによるライブ講義とし、演習科目は104時間の面接（カウンセリング）の体験学習を行います。受講期間中はいつでも、どこでも、何度でも、ご自身の学習スタイルに合わせて学ぶことができます。すべてのカウンセリングの基本である「傾聴」をグループワークで体験的に学び、実践力を養います。当協会ではカウンセラーの養成をはじめ、企業・団体向けの研修や相談、個人向けの相談など、その活動領域は多岐にわたっています」

カウンセリングの基本である「傾聴体験講座（無償）」が大阪の当研修センターのほか、神戸、姫路、京都、滋賀、和歌山で開催している。当日参加も可能なので、気軽に問い合わせしてみよう。



講師を囲んでのグループワーキング



一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 関西支部

カウンセラー協会 関西支部

検索

広告